

# 東松島復興推進員だより(第 38 号)

東松島市地域復興推進員 (JICA 東北)

岩崎 未来

Hola(オラー) みなさんお元気ですか?

この言葉はスペイン語で「やあ」という意味で、親しい間柄での挨拶として使います。

私たち地域復興推進員が活動する東松島市では、現在本市出身のお二人が 青年海外協力隊 (以下、協力隊) として活躍しています。今回の推進員だよりでは、2018年8月から中米のグアテマラ共和国で活動する武田穂<sup>たけだか</sup>さんが作成している、東松島市内の小・中学校向け壁新聞『グアテマラ通信』についてご紹介します。

## “青年海外協力隊”として、どんな活動をしているの？

グアテマラ共和国の地方都市ソロラ県サンルーカス・トリマン市にある公立小学校3校を巡回しながら、九九や掛け算を教えるなど算数教育の授業支援を行っています。

冒頭のあいさつ「オラー」は武田さんが朝から晩まで、誰にでも使っている挨拶です。



算数の授業での個別支援の様子



みんなで作った九九カードを使って復習

※青年海外協力隊とは、開発途上地域の人々のために、自分の持っている技術や経験を生かしたい意欲を持つ方を派遣し、支援する事業です。現地の人々とともに生活・協働しながら国づくりのために協力しています。

## 壁新聞『グアテマラ通信』とは？

『グアテマラ通信』は、武田さんの「自分の生まれ育った故郷である東松島市の子どもたちが、海外に興味を持つきっかけづくりや、国際理解の機会になれば」という思いから発案されたものです。

当初この通信は、武田さんの出身小学校1校のみで掲示する予定でしたが、東松島市教育委員会から「ぜひ市内の学校全域で掲示してみてもどうか」という提案と力強い後押しをいただけたこともあり、東松島市内の全小中学校 (小学校8校、中学校3校) で掲示することにしました。2019年2月に第一号が掲示され、この活動は武田さんが帰国予定の2020年1月まで続ける予定です。

通信では、グアテマラ共和国の食べ物や文化、武田さんの活動の紹介の他、公用語のスペイン語や現地語のカクチゲル語での挨拶紹介など、楽しい写真を交えて紹介されています。

私たち推進員は、武田さんから届くこの通信を、市内の小中学校へ届ける役目を担っています。記念すべき第一号を掲示する際、私たちは全校朝会での紹介や、昼の全校放送でグアテマラ通信の広報を、JICAや青年海外協力隊の説明も交えて行いました。

## 武田さんの母校との交流～通信ポストの設置～

武田さんの母校である矢本西小学校では、掲示だけでなく、児童のみなさんと武田さんがお互いに交流できる取組みとして、グアテマラ通信ポストを設置しました。

児童に通信の感想や武田さんへの質問などを自由に書いてポストに投函してもらいます。推進員は、児童からの質問やお便りを武田さんにメールでお伝えし、武田さんに次号で質問に答えてもらうといった交流です。

じつは武田さんは、協力隊として派遣される前に矢本西小学校で2週間インターンシップをしており、武田さんを知っている児童も多いのです。子どもたちから温かいメッセージや質問も多数寄せられていました。

### 武田さん作成「グアテマラ通信」

(東松島市内小・中学校掲示用)

## グアテマラ通信 第2号

2019年4月7日

お話ししますし、しょう、ちやうどぐい、みな、東松島市の小・中学生の皆さん、こんにちは！お元気ですか？グアテマラでボランティア活動をしている武田東穂です。

4月から新学期が始まり、新しいクラスにも慣れてきた頃でしょうか？きっと日本では桜も咲き始め、美しい春の季節がやってきていると思います。私も日本に帰ってから桜を見るのを楽しみにしています。では今回もグアテマラや活動のこと、たっぷりご紹介いたします！！

**? ソロラ県ってどんなところ？**

みなさん、私が今住んでいる町の名前を覚えていませんか？

そうです、ソロラ県サン・ルーカス・トリマン市というところですよ！

ソロラ県には、アティトラン湖を囲うようにある町々を中心に19のムニシピオ（市・町・村のようなもの）があります。私の任地はその中のひとつです。今回はたくさんあるソロラ県のムニシピオの中から、『パナハチェル』という町をご紹介します。

(アティトラン湖周辺地図)

今回紹介する町  
『パナハチェル』

わたしの住んでいる町

**パナハチェルの魅力**

パナハチェルから見たアティトラン湖の景色

ソロラ県一の観光地として、とても人気のある大きな町です。また町の中心部には、レストラン・ホテル・グアテマラのかわいいお土産屋さんなど、沢山のお店が立ち並ぶサンタンデール通りがあります。

グアテマラ通信の発案者である武田さんも、児童からのメッセージを読み、東松島の様子や母校の様子を知ることができ、自分自身の算数教育、小学校教育の活動のモチベーションにつながっているようです。5月に送られてきた第2号では、子どもたちの質問に対する、武田さんからの初めての返事が届きました。私たち推進員も、東松島とグアテマラの仲介をしながら、お互いの交流、子どもたちの感想や質問を見るのがとても楽しみです。

地域復興推進員はこれからも、東松島から世界で活躍している方々と東松島の市民の方々をつなぐ架け橋として活動していきます！

以上